

学生キャンペーンおよび学生の 取り組みの紹介について

平成21年10月27日

全国学生献血推進実行委員会

実行委員長 太田 裕己

(目次)

1. 全国学生献血推進実行委員会について
2. 全国学生クリスマス献血キャンペーンについて
3. 各都道府県の効果的な取り組み
4. 東京都の取り組み

1. 全国学生献血推進実行委員会について

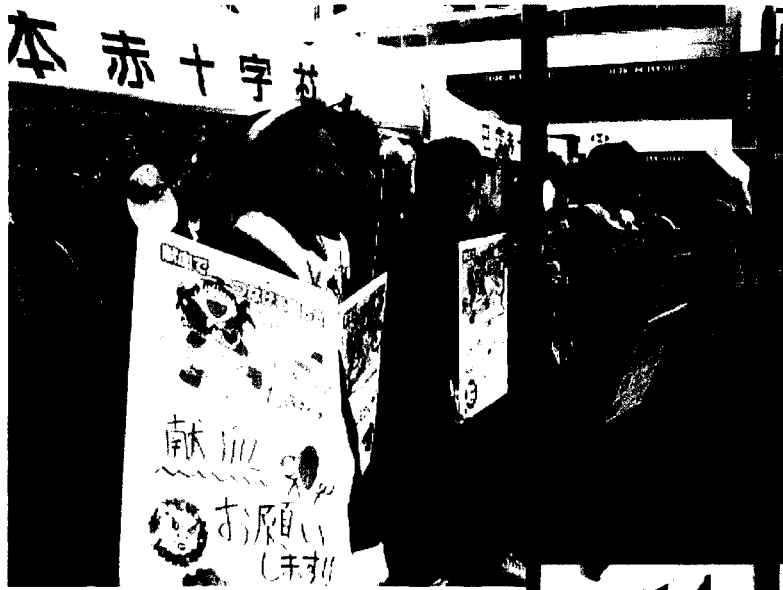
- 全国の7ブロック、計16名の学生献血推進メンバーによって構成された学生献血推進団体の全国代表組織。
- 年に3回、学生間の意見交換と若年層に対する献血推進の普及を目的に会議を行い、全国統一のクリスマスキャンペーンに向けての話し合いや反省を行っている。
- 年に1度、実行委員会主催のもと47都道府県の学生献血推進団体代表者が集まって交流を深める「代表者会議」が行われる。

2. 全国学生クリスマス献血キャンペーンについて

(東京都の例を中心として)

- 冬場の血液不足の解消と、若年層への献血の理解と協力を促すことを目的として、12月に全国統一で行われるキャンペーン。
- 企画・運営を始めとして、献血の呼び掛け、装飾、受付、誘導、準備や片づけに関して全て学生が主体となっていく。
- 学生はサンタの衣装やけんけつちゃんの着ぐるみを着て呼びかけを行い、テント等もクリスマス一色に飾り付ける。
- 東京都では最近70～80名の学生ボランティアの参加があり、その数は増加傾向にある。
- 一人でも多くの方にご協力いただくために、各県趣向を凝らした取り組みやイベントを行っている。
〔例：ペア献血、ハンドベル演奏、吹奏楽演奏、ガラポン抽選会、アートバルーン・風船の配布、野球選手との記念撮影会〕
- 昨年度のキャンペーンでは全国で、受付13770名、献血10834名の方にご協力いただいた。

(東京都のクリスマスキャンペーンの様子)



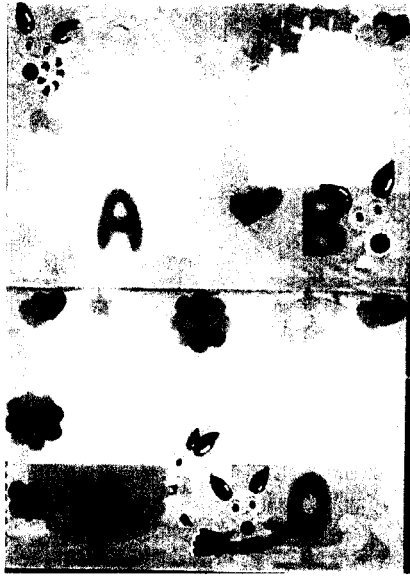
3. 各都道府県の効果的な取り組み

- ◆ 献血ウィーク（北海道ブロック）
→学生ボランティアに実際に献血をしてもらう週間を作り、献血の内容を知ってもらう。
- ◆ 成分献血キャンペーン（近畿ブロック）
→安定した血液を確保するために、一定の期間中毎月30本を目標に学生ボランティアが成分献血を行う。
- ◆ ティッシュの事前配布（東北ブロック）
→献血知識PRのためにティッシュにPRチラシを挟んで、キャンペーンの事前に配布。
- ◆ メッセージを小児病棟へ寄贈（近畿ブロック）
→メッセージボードをキャンペーン時に設置し、献血者の励ましの言葉を後日病院の小児病棟へ寄贈。
- ◆ 博多どんたく祭りへの参加（福岡ブロック）
→博多どんたく祭りにおいて、各県が呼び込み時に使っている衣装を着ながら献血の宣伝をして練り歩く。
- ◆ 高校生への講義（福岡ブロック）
→高校生を対象にして献血の詳しい知識や献血の重要性について講義を行う。
- ◆ 1225献血キャンペーン（福岡ブロック）
→ブロック全体で1225名の献血者を目指すキャンペーンを実施し、各県一丸となって目標を目指すことで大幅な献血者増加につながる。
- ◆ ラジオ出演、テレビ宣伝（諸ブロック）
→学生がラジオに出演し、献血キャンペーンの宣伝と献血へのご協力を呼び掛ける。また、ニュースリリースをメディアに送付し、キャンペーンの様子をテレビに取り上げってもらう。

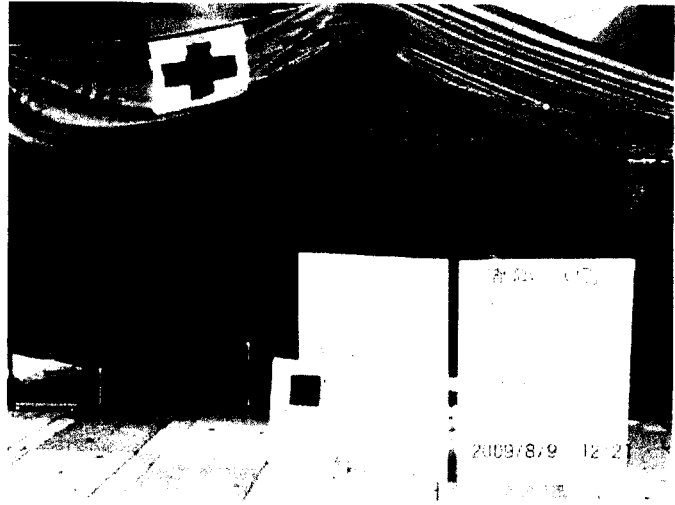
4. 東京都の取り組み

- 毎月の会議にて学生に向けた勉強会やDVD上映、血液センターの見学会を実施。
- 呼び込みマニュアルを作成し、呼び込み時に心がけることや、献血の知識を呼びかけることをボランティアに意識させる。
- 献血者のメッセージを貼り付けるカウントアップボードを設置。
- 献血の現状について書いた説明ボードを設置。
- 今年度から「患者さんのメッセージ」を献血者にお配りする予定。

カウンタアップボード



説明ボード



患者さんのメッセージ例



現在白血病の治療を受けている30代の父親です

献血に協力していただいている皆様の方へ

自分は白血病の治療を受けている30代の父親です。今まで自分が使ってきた頃、献血に対して興味はあったものの勇気が無く、実際に足を運ぶことはありませんでした。けれど、自分では想像もしていなかった勇氣になり、治療を受けるようになって献血の大切さを改めて実感し、みなさんの勇氣に感謝と感激をしています。

もし、輸血する血液が……自分にもしものことがあった場合、残された子供たちはどうなってしまうのでしょうか……。退院して元気になったら、今度は自分が困った人たちのために何か協力したいと思っています。

献血にご協力いただき本当にありがとうございます。

40歳代

2/37



生かされた命大切に

皆さまにお礼を言いたくて筆をとりました。

息子が急性リンパ性白血病と診断されて四年、その闘病生活は壮絶なものでした。体内には抗がん剤が注入され、その副作用で体は衰弱。一カ月経過後、敗血症により高熱、悪寒、寒戦、呼吸困難、目も見えにくくなり集中治療室へ。血球が減少し赤血球輸血や血小板輸血を続けなければならぬ状態でした。

その間、数えきれないほどの血液製剤のお世話になりました。苦しみわが子を見るにつれ、輸血を受けるなら副作用の少ない400mL製剤がどんなにありがたく思ったことか。

90%は駄目だといわれていた命、献血に協力してくださった方や医療スタッフのお陰ですっかり息子は元気になり、今では高校生、ラグビー部で活躍しています。生かされた命を大切にします。

主婦

4/37

善意の献血です 輸血を支えているのは いのちをつないだ献血 「アンパンマンのエキス」

輸血を支えているのは
善意の献血です



神戸・三宮センターシティ献血ルームでの成分献血の様子（1月27日から1月28日まで、神戸市115歳へ移植）

過酷な治療を支えた輸血

ある男の子の闘病記

「献血してくれた人たちに感謝がとどくまで育ちたい」と、11歳がなくなったばかりの子の母、高橋さんが話している。高橋さんは、神戸市で暮らす、サラリーマンの父と専業主婦の母の間に生まれた男の子の母です。高橋さんは、11歳の息子、高橋君を育てています。高橋君は、生後10ヶ月のときに、先天性の心臓病を発症しました。高橋君は、毎月定期的に手術を受けているのですが、手術後の回復が思うように進まず、高橋君は、心臓病だけでなく、免疫機能も弱くなっています。高橋君は、最近、肺炎を発症し、入院することになりました。高橋君は、入院中に、成分献血による輸血を受けました。高橋君は、輸血を受けて、徐々に元気になっていきました。高橋さんは、息子に感謝の言葉を述べながら、献血の重要性を話しています。

ありがたい 気持ちがあふれ

高橋君は、入院中に、成分献血による輸血を受けました。高橋君は、輸血を受けて、徐々に元気になっていきました。高橋さんは、息子に感謝の言葉を述べながら、献血の重要性を話しています。

血液事業を支える人たち ①

企業や公共団体



街頭イベントでの献血会場

呼びかけに応え緊急の協力も

企業が献血事業を支える役割は、単に献血を呼びかけるだけでなく、緊急時に必要な輸血を確保することです。多くの企業が、献血ルームを設けたり、献血バスを運行したりしています。また、一部の企業は、災害発生時に献血バスを派遣したり、献血ルームを開放したりしています。これは、社会全体の安全と健康を守るために重要な役割を果たしています。



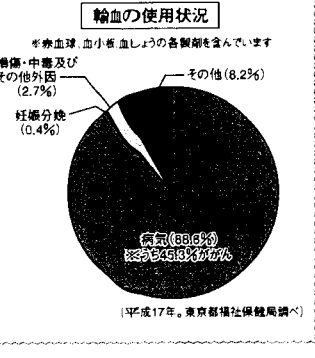
りょうすけくんとのなつちゃん

献血の意義

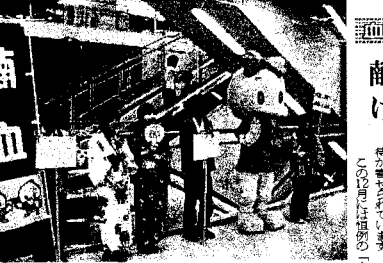
献血は、命を救う行為です。輸血は、病気や怪我で失った血液を補充するための大切な手段です。献血によって、多くの命が救われています。献血は、社会の一員としての責任を果たすことでもあります。献血は、社会全体の健康と安全を守るために必要な行為です。

がん治療にもっとも必要とされる輸血

交通事故など不慮の災害などの時に輸血は必要です。一般にそのイメージが強いですが、実際血液の使われ方では癌が最も輸血を必要とする病気です。癌の治療には、手術や放射線治療が必要で、手術や放射線治療後は、患者の体質が弱くなり、出血しやすい状態になります。そのため、手術や放射線治療後は、輸血が必要となります。癌患者の輸血量は、他の病気患者よりも多いことが特徴です。



資料 13

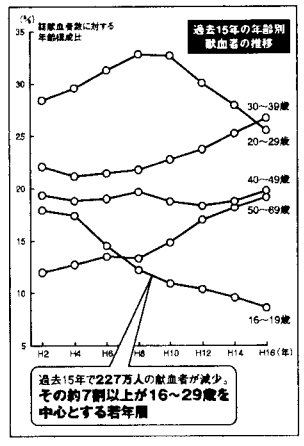


学生献血ボランティアが企画した献血の呼びかけ

献血募集呼びかける学生団体も

ボランティア

多くの学生団体が、献血の呼びかけを行っています。これは、社会貢献の一環として行われています。学生たちは、献血の重要性を多くの人に伝えることで、献血の普及に努めています。学生団体の活動は、社会全体の健康と安全を守るために重要な役割を果たしています。



過去15年で227万人の献血者が減少。その約7割以上が16～29歳を中心とする若年層

献血の減少は、社会全体の健康と安全を守るために懸念されています。若年層の献血の呼びかけは、献血の普及に重要な役割を果たしています。学生団体の活動は、社会全体の健康と安全を守るために重要な役割を果たしています。